

| | | | | |
|--|------------|------------------|---------------|---------|
| 担当教員 福岡正太 | | | | |
| 開始時期 前期 | 開講期間 半期 | 科目番号 20DCSe01 | 授業形態 講義・演習 | 単位 2 |
| キーワード 東南アジア、音楽、リズム | | 対象学年 1,2,3 学年 | 聴講・参加資格 専攻 | |
| 科目名称：日本語（授業概要の授業科目） 比較芸術研究 I | | | | |
| 科目名称：英語(授業概要の授業科目) Lecture I (Anthropology of Art) | | | | |
| 科目の概要：日本語(授業概要の内容) 東南アジア音楽のリズム構造 | | | | |
| 科目の概要：英語(授業概要の内容) Rhythmic Structure of Southeast Asian Music | | | | |
| 科目の目的： 音楽は時間の中で展開する。人は音楽を奏でる際に、どのようにタイミングを計り、音を合わせるのか。複数のパートは、いかに複合的にリズムを編み上げるのか、時間的構成としての形式にはどのような特徴があるのか。この講義では、東南アジアの音楽を例に取り上げ、音を時間的に配置する方法、すなわち、音楽の時間的組織化の諸原理を探る。 | | | | |
| 学習成果・習得する技能や知識： 民族音楽学におけるリズム分析に用いられてきた概念を学んだ上で、東南アジアの諸地域における伝統音楽のリズムの特徴を把握し、それらの比較を通して東南アジア音楽に共通するリズム構成の原理、およびそれぞれの地域や音楽ジャンルのリズムの特徴を理解する。 | | | | |
| 成績評価方法・基準： ディスカッション（30%）とレポート（70%）により評価する。 | | | | |
| 授業内容： 講義と文献購読および学生によるプレゼンテーションの3回を1つのユニットとして、次の5つのテーマを取り上げる。なお、受講生の専門等により、テーマを変更することがある。 1. ゴング合奏にみるリズムのかけ合い 2. 王宮で発達した大規模合奏音楽にみるコロトミック構造 3. ガムランにみるリズムの密度の変化 4. リズムを合わせる点とそれに応じた音楽の構成法の比較 5. 古典歌謡にみる一定の拍節にしたがわないリズム | | | | |
| 日程： 受講生と協議の上決定する。 | | | | |
| 実施場所： 受講生と協議の上決定する。 | | | | |

使用言語：

日本語

準備学習：

ユニットごとに指定する文献を読み、各自のフィールドにおける音楽を例との比較に基づくプレゼンテーションの準備をすること。

関連科目・履修条件：日本語

特になし。

教科書・必読書：日本語

授業中に指示する。

参考書・その他の教材：日本語

授業中に指示する。

備考：日本語

地域文化学・比較文化学の2専攻の学生のみ申請可